

■日時 令和3年8月19日(木) ■天候 晴れ

天理高校 対 神村学園高等部・福岡・通

■球場 大田スタジアム 第1試合 決勝

■試合時間 1時間55分 ■備考

■審判 球審:竹本 塁審:上松 佐々木優 大和

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
天理	東近畿1・奈良	3	0	2	0	0	0	1	0	1	7	10	2
神村学園 福岡・通	東九州・福岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	捕		佃 隆人	5	2	3	0	左安	中安		投ゴ		二飛			左2			
2	遊		森 脇 達 紀	4	1	0	0	三犠	中飛		一ゴ			遊失		右飛			
3	中		片 山 陽 平	5	2	3	1	左2		中3		一ゴ		投安		遊失			
4	一		有 木 直 也	3	1	1	0	一ゴ		四球		中3		二飛		四球			
5	投		沖 勇 輝	4	1	1	3	中失		左安		三飛		中犠		二飛			
6	右		有 本 義 人	5	0	1	1	一安		三ゴ		二飛		中飛		中飛			
7	左		堀 田 良 之	4	0	1	0	遊飛		投飛			中安		三ゴ				
8	三		堀 田 仁	4	0	0	0		中飛	三飛			遊ゴ		三ゴ				
9	二		丸 木 聖 悟	3	0	0	0		中飛		三振		投飛						
9	打		奥 村 実 那	1	0	0	0								三振				
9	二		溝 淵 貴 太	0	0	0	0												
合計				38	7	10	5	残塁:8 併殺:0											

備考

■バッテリー

投手	捕手
沖 勇 輝	佃 隆 人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
沖 勇 輝	9	31	2	12	1	0	106

神村学園 福岡・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	右		大 村 輝	4	0	1	0	三振		三振			三ゴ			左安			
2	三 遊		木 下 裕 太	4	0	0	0	遊失			三振		中飛			三邪			
3	捕		廣 田 敦 也	4	0	1	0	遊ゴ			左3			遊ゴ		中飛			
4	遊 三		稲 永 和 彦	4	0	0	0	三振			三振			中飛		投ゴ			
5	一		川 原 英 也	3	0	0	0		三振		二ゴ			三振					
6	投		川 口 優 羽	3	0	0	0		中飛			捕邪			三振				
7	二		崎 田 和 音	3	0	0	0		三振			三ゴ			三振				
8	左		濱 田 祐 斗	3	0	0	0			三振		三ゴ			三振				
9	中		小 野 田 直 亮	2	0	0	0			投ゴ			一ゴ			四球			
合計				30	0	2	0	残塁:4 併殺:0											

備考

■バッテリー

投手	捕手
川 口 優 羽	廣 田 敦 也

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
川 口 優 羽	9	42	10	2	2	3	140

■戦評

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりに、また全試合無観客にて行われた第68回大会の決勝は天理高校と神村学園高等部・福岡・通信制の対戦となった。ここまで2日間3試合で計300球以上を投げてきた神村学園・福岡先発の主戦川口が4試合全て二桁得点の天理打線をどのように封じるかがこの試合のポイントであった。天理は初回先頭の佃が安打で出塁し2番森脇が初球で犠打を決め好機を作る。続く3番片山の打席でヒットエンドランを敢行、片山は真中速球を強振せず逆方向に打ち返す適時二塁打とし1点を先制。さらに相手の守備の乱れを逃さず2点を追加。3回無死二塁から5番沖の2点適時安打で点差を広げる。対する神村学園・福岡は4回一死から3番廣田がチーム初安打となる三塁打を放つが後続を絶たれ無得点に終わる。神村学園・福岡川口は序盤に失点を許すも右打者への変化球と左打者への外角低めの速球を中心に粘りの投球を続け味方の反撃を待つ。しかし天理先発沖がそれを上回る投球を見せ、120キロ台後半の速球を高低に投げ分け8回まで1安打12奪三振の快投。天理が7回9回1点ずつ追加し7-0で迎えた9回裏、神村学園・福岡も無死一二塁と意地を見せたが、最後は沖が4番稲永を投ゴロに抑え完封で試合終了。5試合計61得点3失点と完全に他を圧倒した天理が14大会連続17回目の優勝を飾り4日間の熱戦は幕を閉じた。一方惜しくも準優勝となった神村学園・福岡だが、決勝も9回140球を一人で投げ4試合計450球以上を投げ抜いた川口の力投と主将廣田を中心とした強打で優勝した天理同様大会を大いに盛り上げた。最後にコロナ禍による中断期間を挟んでもやはり盤石の強さを誇った天理の、この試合で見られたような大量点後も一塁走者が擬装盗塁を怠らないなど細部へも手を抜かないこだわりこそが連覇の根幹なのだ改めて感じた。このような天理の野球を参考に、天理に追いつき、追い越すチームは現れるのか。来夏に期待したい。